



絆と想い 音色に乗せて故郷へ

尺八演奏家・うわじまアンバ
サダー 中村 仁樹 さん

17歳で尺八に出会い、東京藝術
大学 音楽部邦楽科 尺八専攻へ
進学。現在も尺八の音色をさま
ざまなジャンルに生かしている。
大自然と尺八がリンクした動画
制作プロジェクト「Shakuhachi
Sound - JIN -」では、実際の自
然の中で演奏に挑戦する。

いよいよ4月24日(日)に開幕する「えひめ南予きずな博」。オープニングイベントには、本市出身の尺八演奏家中村仁樹さんが出演します。きずな博の一環として行われるイベントのクラウドファンディングにも応援メッセージを寄せ、今もうわじまアンバサダーとして本市に関わり続けている中村さんには宇和島への温かい想いがあります。

中村さんにとって、高校卒業まで過ごした故郷は親のような存在で、今の自分自身の土台を作ってくれ帰省したときはゆったりした時間で安心感を与えてくれる場所だと言います。平成30年7月豪雨の直後で傷付いた自然や街並みを見て胸がうずき、チャリティーコンサートを開催したときは、子どもが親を心配するような気持ちで体が勝手に動いていたと当時を振り返ります。

現在の活動にもその想いが宿ります。中村さんは大学からずっと東京に住み、ビルに囲まれた生活を送る中でふとした瞬間に地元の大自然の風景が恋しくなるそうです。そんな子どもたちの思い出の景色が作曲のテーマとなることが多く、自然の豊かさやぬくもりが力強さとみずみずしさを表現す

る尺八の音色とマッチした世界観が創り出されています。

中村さんは「えひめ南予きずな博」にさまざまな期待を込めます。

「このイベントをきっかけにいろんな人との交流や笑顔を取り戻してほしい。自分自身もコロナ禍でできなかった帰省が数年ぶりに叶うこともあり、たくさんの人に会うことを楽しみにしている」と笑顔がこぼれます。

また、「夢を叶えてくれるのは自分であり、周りの人たちでもありと独り立ちしてから特に感じた。面白そうだなと思ったことは夢を見付けるきっかけになるので積極的に会いに行きましよう」と子どもたちにメッセージを送ります。

離れていても見えない絆でつながっている。そんな中村さんの想いに乗せた音色が「えひめ南予きずな博」の開幕を鮮やかに彩ります。